

「香港中文大学サマースクール（英語コース）参加報告書」

京都大学経済学部3年 能勢隆志

①学習成果

学習成果としては、この一か月間で自分に何が足りていないのかが見えてきたように思います。具体的には、英語力の問題と、日本に関する知識の問題です。

英語力の点では、講師のはっきりとした口調の話を理解することはできましたが、講義中のクラスメイトの質問や意見を理解することは難しく、時にはその人が賛成なのか反対なのかさえつかむことができないこともありました。また、同い年のアメリカ人ルームメイトの自然な口調やスラングを聞き取れなかったり、リーディングのケースを読んだりレポートを英語で書く際に単語の意味や文法に目が行ってしまい全体像を掴めなかったりと、自分の英語力がまだまだ不十分であることを痛感しました。一方で、現地の香港人学生や中国人学生が、欧米人と比べてゆっくりではあるものの、懸命に自分の言葉でプレゼンをしている姿を見て、自分がまず目指すべきは彼らであり、彼らに刺激を受けて、自分もなりふり構わず発信する努力をしていこうと思うようになりました。

日本に関する知識の問題では、ビジネスの授業中に、日本企業（日産など）のケースを扱うことや、日本の特異な文化（集団主義やリスク回避的な文化、ハイコンテクスト文化など）が話題になることが多く、意見を求められることもありました。しかし、各々の事例について詳しい知識を持っておらず、むしろ他の学生の方が現在の日本経済や政策について精通しているという恥ずべき状況もありました。また、アジア以外の人が多くが京都を知りませんでした。日本人としてもっと日本及び京都のことを知る必要があり、しかもそれを英語で発信できるようになる必要があると思います。

②海外での経験

今回の短期留学を通して、様々な刺激を受けました。まず、プログラム参加者が非常に多様で、アメリカやヨーロッパ、オーストラリア、アジアなど世界各地から来ていました。しかも、それぞれのバックグラウンドが複雑で、例えば小学校卒業後、韓国からカナダに家族ぐるみで移住した人もいれば、祖父母が中国人、フィリピン生まれのカナダ育ちの人もいて、生まれた国の教育しかこれまで受けてこなかった自分はむしろ珍しいくらいでした。また、プログラムに参加している中国人のほぼ全員が、大学教育をアメリカで受けていて、英語も堪能で堂々と振舞っており、衝撃を受けました。日本にいと、外見をただでこの人は〇〇人だろうとある程度推測できますが、今回のサマースクール滞在時は、それぞれがどのような経歴を持っているのか悉く予想が外れ、まさに人は外見だけで判断できないなと実感すると共に、世界的には、日本人のある種型にはまった生き方以外にこだわる必要はなく、もっと破天荒な道を進んでもいいのではないかと思うようになりました。

③プログラム内容

今回のサマースクールでは、英語によるビジネスの講義”Global Enterprise Management”と”Marketing Management”を受講しました。それらの授業が火、水、木の平日3日間の午前と午後に約3時間ずつありました。毎週土曜日は大学主催のフィールドトリップに参加して香港の定番観光地からマイナーな島や遊園地を訪れました。それ以外の日は、現地でできた友だちと香港の観光をしたり、深圳やマカオを訪問したりする日もあれば、特に用事のない日には寮にこもって勉強することも多く、

自分の中でメリハリをつけるようにしていました。授業が平日の3日間だけだったので、自由に使える時間が総じて多かったように思います。肝心の講義については、英語での講義を受講するのはほとんど初めてだったので、ついていくのに必死で、少なくとも周りに迷惑をかけないように努力で補いました。深夜や早朝に勉強することも多く、当然のことながら英語ネイティブと比べて予習や復習にかなりの時間がかかりました。レポートの引用の仕方を覚え、英語でのグループワークを経験し、また毎回課される15ページほどのケース企業のリーディング（しかも聞いたこともないような企業もありました）をこなしたのは大きな自信になりました。その他のイベントとしては、ウェルカムパーティーやフェアウェルディナー、キャンパスツアーがありました。

④進路への影響

今後の進路を考えるうえで、短期的な影響と長期的な影響にわけて考えます。

短期的な影響としては、現地での生活で伸びたであろう英語力を維持、増強するために、そして自分に不足しているものがわかったのをそれを克服するためにも、京大の英語講義を受講したり、日本での授業を自分にとってもう少し意味があるものに変えていかなければならない、授業を受ける姿勢を変えていかなければならないと強く思いました。

長期的な点では、現地でできた友だちの様々な生き方を見て、何も正しい、正解の生き方が存在するわけではなく、道を踏み外してしまってもいいのではないかなと思いました。具体的には、休学して一年ほど海外に長期留学に行くことです。これまでの自分は、4年で何が何でも卒業しなければならない、もうすぐ就活を始めなければならないと自然と考え、それ以外の選択肢を無意識に排除していました。その結果、社会人になるまでにやりたいのに、やり残してしまいそうなことが多々ありましたが、留学を経て、様々な人の生き方に触れる中で、休学して周りの人より一年遅れの卒業もなしではないと考えるようになりました。自分の中で一か月では物足りない、もっとどっぴりと異国の環境に身を置きたいと思ったからです。帰国後すぐに頭に浮かんだアイデアなので、これが現実に可能なのかは、もっと真剣に深く考えなければなりません。留学中に会った人との交流の中で自分の価値観は良い方向に変化したと思います。